

相沢がエリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由

このテーマを調べることで相沢の人柄や相沢は本当に友達思いなのかどうか深く理解することができ、舞姫という作品をより深く知ることができると思ったのでこのテーマを選んだ。私は、相沢がエリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由は、相沢が豊太郎が寝込んでいる間に豊太郎の帰国についてつたえることで、豊太郎がドイツでいかに間違った道を歩んでいるかを思い知らせたかったのだと考えた。

豊太郎は p267 から分かるように父の遺言を守り、母の教えにしたがって怠らず勉強して勤勉の道を歩んだ。また官長にも仕えの道を与えられて受動的に自らを悟らないまま受動的に外物を恐れてエリートの道を歩んできた。

一方、相沢は天方伯爵に仕えて、同様にエリートの道を歩んできた。そして、p235、3L に書いてあるように、豊太郎の道徳の上から見た行いがきちんとしているとして学生時代の豊太郎を激賞していた。しかし、豊太郎は日本を旅立つ前には、漠然とした功名心と、自己を律することに慣れた向学心とをもってドイツに旅立ったはずなのに、母親や官長の元から離れ、今まで束縛されていた人達から解放されることで、旅立ちの誓いを忘れ学問の道を見失ってしまった。さらに、エリスという女性と交際をし、本来の目的であった法律を学ぶという本筋から離れたところに向かってしまった。

相沢は、学問が荒んでしまっているにもかかわらず、生活のなかに楽しみを感じている豊太郎を知る。相沢は豊太郎の品行方正を激賞していたのに、エリートの道を見失って、自分の道を楽しんでいる豊太郎を見て、相沢は豊太郎が自分がひたすらエリートの道を歩んでいることを否定しているように思えた。そこで、相沢は自分の歩んでいる道を正当化し、さらに豊太郎に間違った道を歩んでいることを思い知らせる方法として、相沢は豊太郎が寝込んでいる間にエリスに伝え、エリスが怒ることを予想して豊太郎をエリートの道に戻そうとしたのである。これは p286 の 7L「学識あり、才能あるものが、一少女の情にかづらいて目的なき生活をなすべき」や p286 で相沢が豊太郎に自分の人生はおおむね順調といっていることから、相沢の人生は順調であって自分の道が正しいということを示していることがわかる。

また、この物語の背景では、自分の能力によって上の階級へのし上がることが可能となった。そしてそのために必要なものは、忍耐、勤勉、新時代の知識学問であった。そしてこれらの行為は「人間として価値のある行為とされていた。相沢や豊太郎はこの時代背景のもとで生まれ育った人物である。豊太郎はエリートの道を親や官長によって受動的に歩まされているように感じているのに対し、相沢はエリートの道を歩んでいることを順調とおもっている。このことから時代背景から考えて、エリートの道を外れた豊太郎よりも、相沢のようにエリートの道を学ぶことが正しく、相沢は豊太郎に間違った道を歩んでいることを伝えたかったのだと思う。

これらのことから、私は、相沢がエリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由は、相沢が豊太

郎が寝込んでいる間に豊太郎の帰国についてつたえることで、豊太郎がドイツでいかに間違った道を歩んでいるかを思い知らせたかったのだと考えた。

わからなかったことは、相沢の豊太郎に対する行動はどこまでが友情によるものなのかわからなかった。

参考資料

現代語訳 便覧 教科書